〇出土遺物（表１）

今回の発掘調査で出土した遺物は、弥生時代から近現代の遺物まで様々な時代のものがコンテナ２箱程度の量があります。古墳に関わる主な出土遺物は円筒埴輪と副葬品があります。

●円筒埴輪

円筒埴輪はほとんどが小片で、規格が分かるものはありませんでした。主だった破片の中には、黒斑と突帯が剝離している状況がみられるものや丁寧にハケ調整した基底部片があります。

●副 葬 品

副葬品はすべて T2-1 から出土しました。現時点で判明しているものとして、鉄剣・鉄鏃・鉄滓・鍛冶滓・青銅製の馬鐸・ガラス小玉が挙げられます。このほか、小型鉄剣あるいは鉄鉾の可能性があるものをはじめ、多量の鉄器片が出土しています。現時点で判明している遺物のうち、鉄剣とガラス小玉以外については、いずれも 1912 年の乱掘時に出土していないもので今回新発見の副葬品となります。

表　1	乱掘時（1912 年）出土　伝・榊山古墳出土副葬品	今年度（2026 調査）出土した副葬品
金銅製品	金銅製多孔鈴１	―
青銅製品	変形神獣鏡１・馬形帯鉤６・環状銅製品１・銅鈴７・龍文透金具１	馬鐸１
鉄 製 品	刀剣多数・斧多数・槍１	鉄剣・鉄鏃多数
石 製 品	碧玉製卵形製品・砥石１	―
そ の 他	ガラス小玉 12	ガラス小玉３・鉄滓１・鍛冶滓多数

※表中の伝・榊山古墳遺物は、千足とほぼ同時期の乱掘を受け、遺物が混在したまま保管されていたものです。榊山古墳から出土したものとは確定されていません。今年度出土した副葬品は整理および保存中のため、点数が確定していないものがあります。

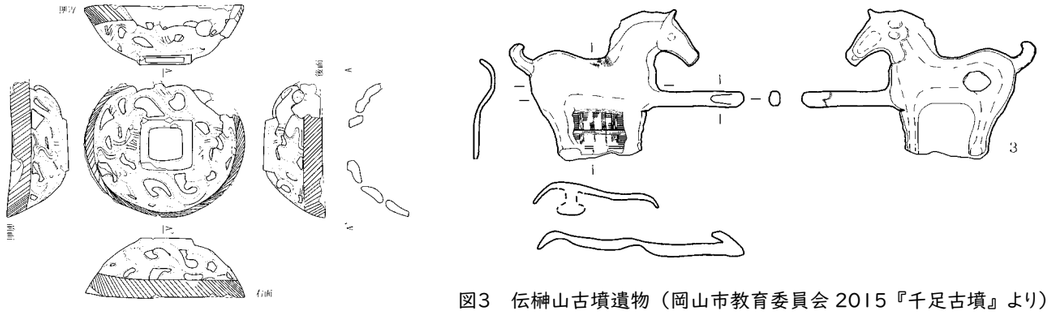


図3　伝榊山古墳遺物（岡山市教育委員会 2015『千足古墳』より）

〇まとめ

今年度の発掘調査の成果として墳丘構造が推定できるようになったことと乱掘時に散乱した副葬品が見つかったことの２点が大きな成果と言えます。

墳丘構造については、現状での１段目平坦面まで地山が確認でき、その地山が墳丘の削り出し面かつ墳形を整形した面である可能性が高いといえます。また、１段目平坦面から墳頂にかけては全て盛土をし、墳丘を構築していたと想定できます。

副葬品については、1912 年の乱掘時に出た資料に加え、今年度の調査で新たに４種類の副葬品が出土しました。このことから、副葬品のバリエーションが増えただけでなく、被葬者像を考える重要な要素の一つを掴むことができたといえます。

今後も、榊山古墳の墳丘範囲・構造や残存状況を捉えていくために発掘調査を継続していくとともに、今回出土した副葬品の整理・分析も行っていきます。成果を楽しみにしていただきますと幸いです。

参考文献：和田千吉 1919「備中国都窪郡新庄下古墳」『考古学雑誌』9-11, 考古学会
西川　宏 1986「榊山古墳」『岡山県史』第 18 巻 , 岡山県
福尾正彦 2015「「新庄下古墳」の出土品 - 宮内庁書陵部所蔵の経緯を中心に -」『千足古墳』岡山市教育委員会

国史跡 榊山古墳　発掘調査現場公開資料

令和 ８ 年 11 月 15 日（日）　於･榊山古墳（発掘調査現場）
岡山市教育委員会・岡山市埋蔵文化財センター

〇はじめに

岡山市教育委員会では、榊山古墳の範囲確認調査を 10 月初旬より進めており、この度、確認された遺構および遺物を一般に公開するはこびとなりました。今回の発掘調査は、墳頂および第 1 段平坦面、第 2 段斜面の古墳の範囲や形状と構造、現在、史跡の範囲外となっている周囲の地形の把握を目的として調査を進めてまいりました。墳丘構造が推定できるようになったほか、埴輪や乱掘の際に散乱したとみられる副葬品の一部などが見つかり、その姿が明らかになりつつあります。

〇榊山古墳の概要

榊山古墳は全国で４番目の規模を誇る前方後円墳の造山古墳の南西に位置する円墳で、5 世紀前半の築造が考えられます。墳長は現存約 40 mの 2 段築盛で、北西・南西・南東のいずれかの方向に造り出しあるいは前方部が付属すると想定されています。1912（明治45）年、開墾時に乱掘を受け、銅鏡や馬形帯鉤、龍文透金具など多数の副葬品が出土したことで著名です。また、墳丘南西側では、伽耶系の陶質土器が出土したことが明らかになっています。

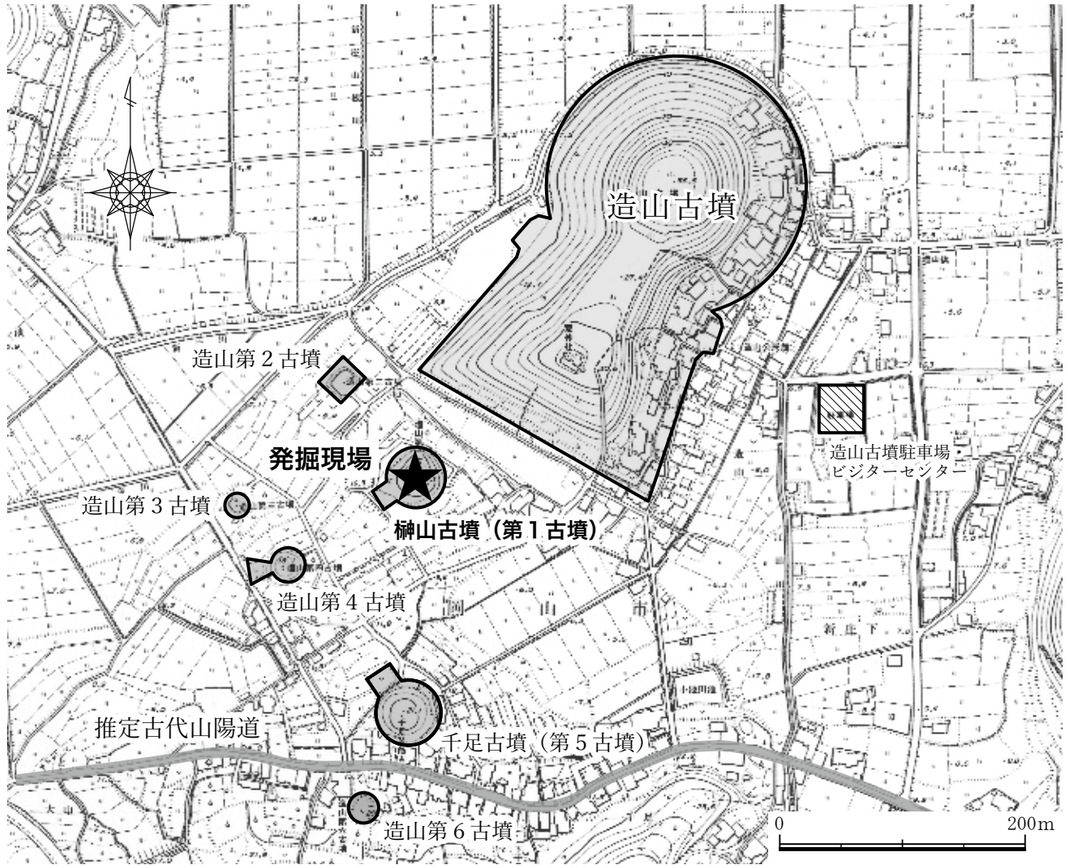


図１　榊山古墳と周辺の古墳

〇調査区設定の目的と成果（図2・3）

榊山古墳は、1912年に乱掘を受け、副葬品など出土遺物の種類や量がある程度把握できているものの墳丘は発掘調査されておらず、墳丘の規模・構造、残存状況については不明な点が多く、課題とされてきました。現状、墳丘は一部削平され、不整形な状態で残存するほか、付属するとされる造り出しあるいは前方部は見る影もありません。そのため、発掘調査をすることで榊山古墳の墳丘の規模・構造および残存状況を明らかにしていく必要がありました。

● 2026T1

目的：2026T1は北西方向に設定したトレンチで、T1-1は墳頂の範囲・残存状況を、T1-2は現在史跡の範囲外となっている土地で古墳の墳裾や周溝状遺構などの把握を目的に調査を行いました。

成果：T1-1では、墳丘の盛土を確認しました。加えて盛土が斜面方向に落ち込んでいく肩の部分も確認しましたが、古墳築造当時のものかどうかは今後検討が必要です。T1-2では、浅い深度で地山を確認しました。トレンチ北西側では地山が落ち込む部分を確認できましたが、この落ち込みが墳裾あるいは周溝状遺構の名残りかどうかは今後も調査を継続して明らかにする必要があります。

● 2026T2

目的：2026T2は南西方向に設定したトレンチで、T2-1は墳頂の範囲・残存状況を、T2-2は現状、1段目平坦面となっている部分の構造や残存状況の把握を目的に調査を行いました。

成果：T2-1では、墳丘の盛土を確認しました。表土と盛土の間に堆積する土層からは乱掘の際に散乱したと考えられる副葬品類が近現代の土層中から豊富に出土しました。T2-2では、盛土と地山を確認しました。確認した地山は現時点で最も高い位置であり、1段目平坦面の直下部まで地山を削り出して古墳を成形している可能性が考えられられます。

● 2026T3

目的：2026T3は南東方向に設定したトレンチで、T3-1は墳頂の範囲・残存状況を、T3-1は第2段目斜面と1段目平坦面の構造や残存状況の把握を目的に調査を行いました。

成果：T3-1では、墳丘の盛土を確認しました。加えて盛土が斜面方向に落ち込んでいく肩の部分も確認しました。T3-2では、盛土と地山を確認しました。地山は現状、1段目平坦面でのみで確認できます。

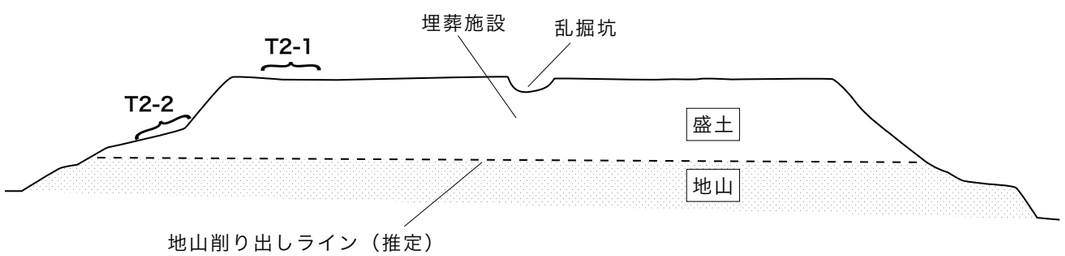


図2　榊山古墳の墳丘構造（復元図）

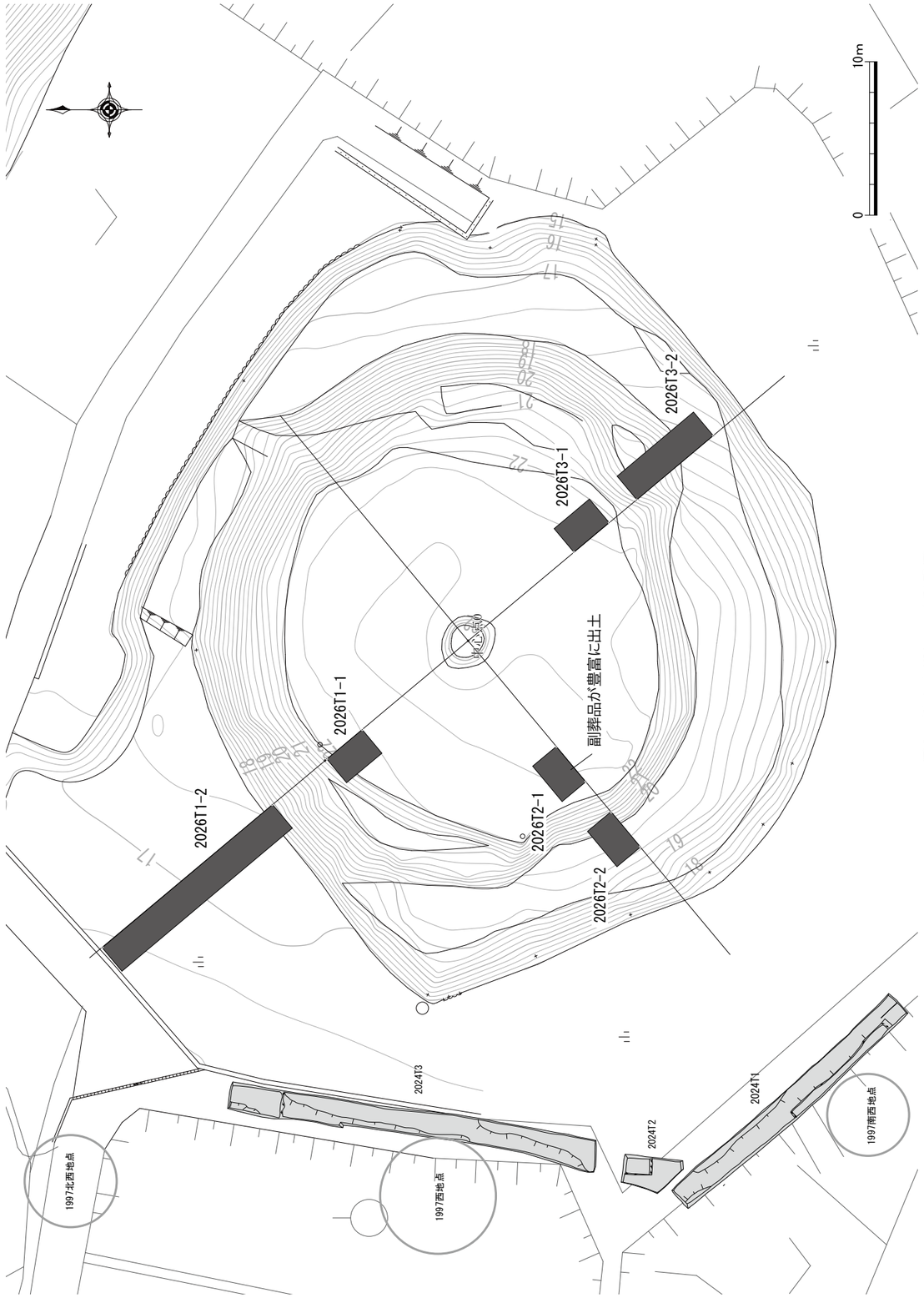


図3　榊山古墳トレンチ配置図